

岡山大学 文学部

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1番1号
お問合せ窓口：岡山大学文学部
Tel.086-251-7345 (代) Fax.086-251-7350
編集：岡山大学文学部広報・交流委員会

<http://www.let.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学文学部 検索

岡山大学

文学部

OKAYAMA UNIVERSITY
FACULTY OF LETTERS

- 哲学・倫理学分野
- 芸術学・美術史分野
- 地理学・社会学・文化人類学・社会文化学分野
- 心理学・社会心理学分野
- 歴史学・考古学分野
- 言語学・現代日本語学分野
- 日本語・日本文学分野
- 外国語・外国文学分野



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



ET QUID
AMABO NISI
QUOD
ÆNIGMA
EST?

謎でなければ
何を愛せようか

2017年度 学部案内

Contents

文学部とは	02
分野・領域	04
カリキュラム	14
プログラム (外国語習得・留学/学芸員課程)	16
卒業論文	18
進路 / 免許・資格	20
学問とは	22

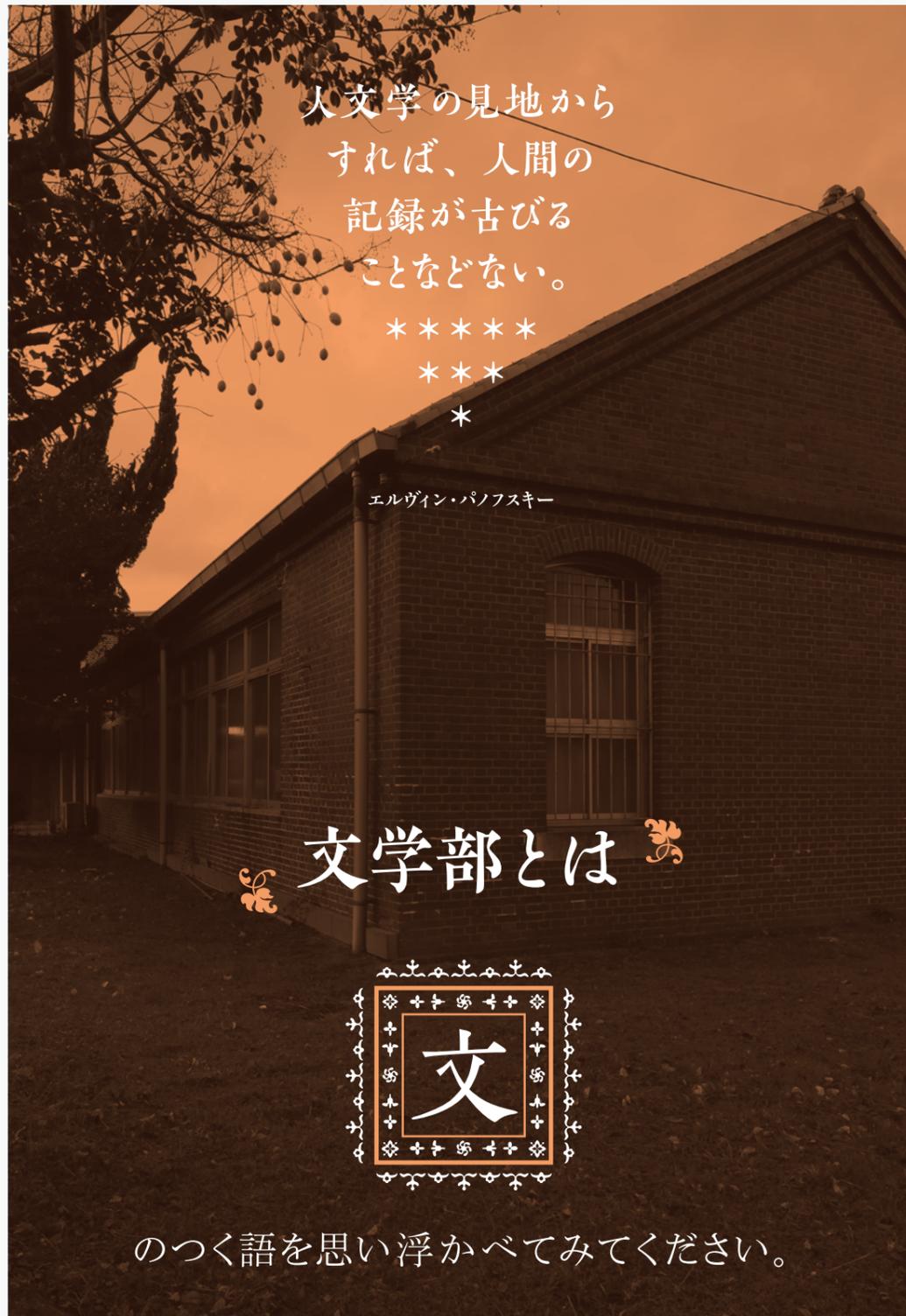




人間を見つめて、知を立ち上げる

岡山大学 文学部 人文学科





文様からはじまって、文字、文書、文芸、文物、文事、文化、はては文明まで……。 「文」とは、ことばの力によって創造された人間の知恵そのもののことです。

「文」の学部たる文学部とは、ことばを獲得した人類が生み出したすべて——思想・芸術・社会・心理・歴史・言語・文学——を総合的に探究する場所にほかなりません。

岡山大学文学部は、1900年設立の旧制第六高等学校文科を承けて発足してから長きにわたり、「文」についての高度な知を培ってきました。それを継承し、新たにことばの力を発揮していくのは、皆さんです。

文学部生から

秋田菜乃香

岡山県、玉島高校出身。現在は、文学部人文学科4年次生として、哲学芸術学専修コース（現・倫理学領域）に所属。

私にとっての文学部とは、私が今まで自分の中で完結させてきた物事に対して真剣に取り組むことのできる居場所です。例えばニュースや本、SNS等、私達の周りには多くの情報が溢れていますが、それらを通して自分の中に様々な疑問や意見が生まれてくると思います。それを面白いものとして肯定し、追究することが許される場が文学部です。

私は日本思想史を専攻し、「明治以降の理想女性とはどういったものであるか」について研究したいと考えていますが、その中で少しずつ情報の取捨選択を意識し、自分の立場をどう客観的に説明していくかを学んでいます。

文学部の魅力とは、私達の生活や考え方をどう自分自身で作り上げていくのか、その基礎を学べるところにあると思います。



河村光

滋賀県、米原高等学校出身。現在は、文学部人文学科3年次生として、行動科学専修コース（現・地理学領域）に所属。

僕が岡山大学文学部に入ってよかったと思うことは、入学してからいろいろな専門科目に触れられることです。自分が以前から興味を持っていたことも、知らなかったことも、学ぶ機会が多くあります。何を学びたいかわからない人も、さまざまな分野に触れながら考えることができます。当初は考えてもいなかったのですが、僕が地理学を専攻したきっかけは、授業を受けてみて、自分の生まれ育った土地について興味をもち、身の回りにある会社の建物や歴史建造物などがどうしてそこに立っているか知りたくなったからです。少人数授業もあり、先生との距離が近くて質問などもしやすく、学びの手助けをしてもらえます。自分の興味を持ったことを自由に学びたい人には、ピッタリの学部だと思います。



坂村淳平

島根県、平田高等学校出身。現在は、文学部人文学科4年次生として、哲学芸術学専修コース（現・芸術学領域）に所属。

私は文学部の芸術学を中心に日々学んでいますが、入学当初は哲学の方に進もうと思っていました。1年次に様々な授業をとっていく中で、芸術って面白いと思うようになり、現在に至ります。芸術作品は、作者が自分の意志や考えといったものを表現したものです。しかし見る人によって多種多様に解釈ができ、それについて視覚的に考察できるのは、文学部でも芸術学ならではの醍醐味だと思います。文学部では、古代ギリシア等の倫理思想や絵画作品についてはもちろん、オペラのような舞台芸術に映画まで研究することができます。このような芸術作品に限らず、人の残したものについて考えを巡らすことに、文学部の良さがあるのではないのでしょうか。



どの学派であってもそれぞれに、
他の学派にはない注目

すべきものを

もっている。

*

ジョヴァンニ・ピコ・デッラ・ミランドラ

分野・領域

岡山大学文学部人文学科で学べる、

8の分野

22の領域

哲学・倫理学分野

哲学領域

倫理学領域

芸術学・美術史分野

芸術学領域

美術史領域

地理学・社会学

文化人類学・社会文化学分野

地理学領域

社会学領域

文化人類学領域

社会文化学領域

心理学・社会心理学分野

心理学領域

社会心理学領域

歴史学・考古学分野

日本史学領域

東洋史学領域

西洋史学領域

考古学領域

言語学・現代日本語学分野

言語学領域

現代日本語学領域

日本語・日本文学分野

日本語学領域

日本文学領域

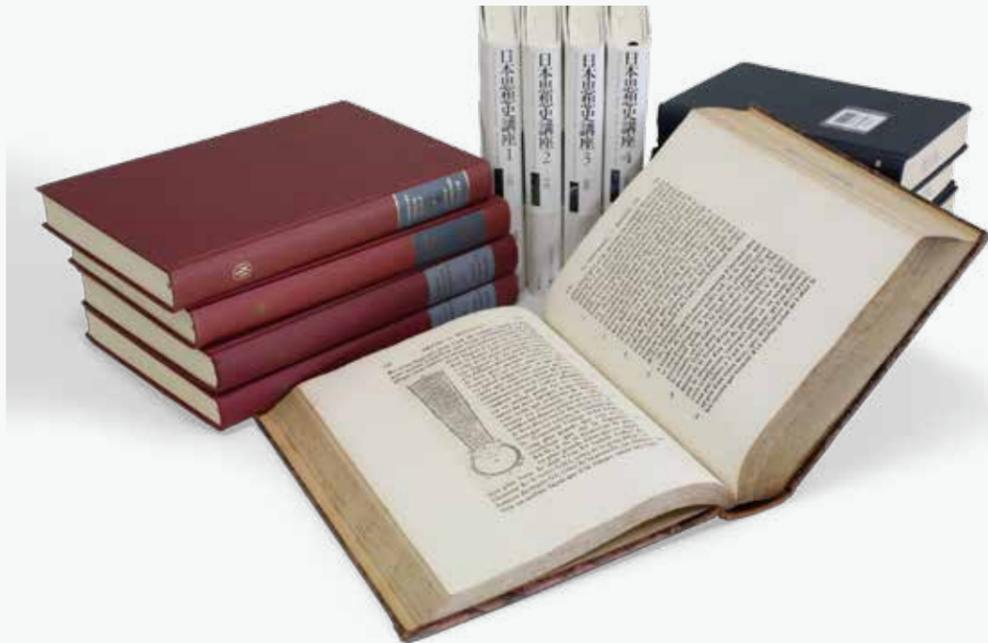
外国語・外国文学分野

中国言語文化学領域

英米言語文化学領域

フランス言語文化学領域

ドイツ言語文化学領域



哲学 | 倫理学分野

哲学領域

哲学とは何か — この問い自体が哲学です。古代ギリシアで哲学の営みを打ち立てたソクラテスは、まさに「〜とは何か」を問い続けました。私たちがふだん当たり前に思っている人間と世界についての様々な観念を、言葉と論理を駆使して原理的に考え直すのが、哲学なのです。哲学領域では、人間の知そのものに関わる理論哲学と、人間の行為や活動、組織や制度に関わる社会哲学を両軸に、倫理学領域と連携しながら、哲学します。

倫理学領域

生老病死、貧困、離別、看取り、哀悼……現代社会がかつてとどれほど異なっているとしても、人間が生きていくうえで直面する困難は、時代を超え、地域を跨いで、相通じるものがあります。倫理学領域では、哲学領域と連携しながら、たとえば人々の死生観、病・貧困・高齢への向き合いを、日本の儒教・仏教・神道思想や西洋のギリシア=ローマ倫理思想・キリスト教思想などから、広く思想史的に考察していきます。



芸術学 | 美術史分野

芸術学領域

芸術学領域では、「創造」を考察する(狭義の)芸術学と、「受容」を分析する美学を二本柱にして、「作品」を調査する美術史と連携しながら、芸術を研究します。絵画・音楽・演劇・建築・服飾……芸術と呼ぶるものを生み出さなかった文明は、いまだかつてありません。人間が字を書く前に絵を描き、話す前に歌ったとすれば、芸術の謎は人類文明誕生の謎にまで通じているでしょう。装飾・遊戯・旅行・風景なども芸術学の対象です。

美術史領域

美術史領域では、日本や西洋の芸術作品を、歴史を通して理解していきます。仏像や浮世絵にしても、油彩画や写真にしても、ただ綺麗というだけのものではなく、歴史のなかで人々の信念と欲望を担って存在してきました。社会・経済・政治までも動かすその芸術の仕掛けを、芸術学・美学と連携しながら、丹念な調査と検討によって解明します。美学・美術史・芸術学の総合的な視点から研究できるのは、岡山大学文学部の強みです。



地理学 | 社会学 | 文化人類学 | 社会文化学分野

地理学領域

地理学の基本は「見て、歩いて、そして考える」ことに集約されます。人間の行動が地域・場所とどう関係しているのか、が地理学の中心課題です。授業では、近隣地域を対象にしたフィールドワークに出かけ、「見て、歩いて、そして考える」ことを実践します。なかでも産業地域や都市の変動、農山漁村の現状、地域の文化景観の変容など、現代の地域をめぐる特徴や地域差を考える研究、地域的な課題の解決に迫る研究を重視しています。

社会学領域

一言でいえば、社会学は人々の関係性や、社会の成り立ち・しくみを明らかにする学問です。その入口は、国際結婚や子育て、まちづくり活動、農山漁村の暮らし、死生観、同性カップル、アニメやファッションなど、実に多様です。個人的な悩みや課題も、実は社会とつながっていること。それを、インタビューやフィールドワーク、質問紙調査などを通して明らかにし、私たちの暮らす社会を理解していくのが、社会学なのです。

文化人類学領域

文化人類学では、地球上の様々な人々の文化・社会を比較し、研究します。私たちがテレビや旅行などを通じて接する「異文化」は、ときに奇妙で不可解に見えます。挨拶から仕事の仕方、結婚のルールや子供の育て方で、たくさんの違いがありそうです。でも、それらが「奇妙」なのは、私たちが自分の「当たり前」にこだわっているからかもしれません。他者の視点に立って「当たり前」を問い直すと、人間の多様性が見えてきます。

社会文化学領域

社会文化学では、CM・漫画・映画・SNSなど身近な素材の中の、他民族・自民族・ジェンダーのイメージ構築を分析します。戦争・植民地化がもたらした国際関係や歴史の諸問題、特に戦争体験・記憶・トラウマの世代間継承を扱い、過去の敵同士が相互理解に至る可能性を考察します。「オーラル・ヒストリー」(聞き取り)の方法論を学び、文書に残りづらい人々の感情や経験が、メディアで表象される仕組みを研究しています。



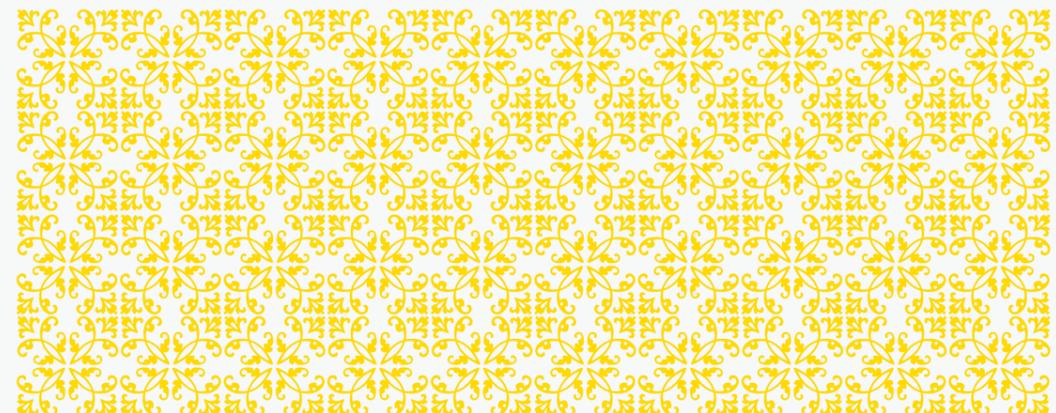
心理学 | 社会心理学分野

心理学領域

心理学領域では、実験や調査を通して、人間が自分を取り巻く環境をどのように認知し、何をどう学習し、思考し、働きかけていくのかについて研究します。機械や装置を用いて心と体の反応を測定したり、心の様子を測定値で表してコンピュータで統計的に解析したりと、心理について実証的に、科学的に研究して、そのメカニズムや法則性を解明していきます。

社会心理学領域

社会心理学は、人間の社会的行動に関する心理学的法則を探求します。研究テーマは、自己認知や自己評価、対人認知、社会的推論、感情、対人行動、人間関係、集団、健康と幸福、文化といった広範囲にわたっています。研究では、実験や調査、面接、観察などの多様な方法を駆使して、人間の複雑な社会的行動の解明を目指します。





歴史学 | 考古学分野

⇒ 日本史学領域 ⇐

日本史学領域では、古文書や典籍といった文字史料の読解方法を修得して、日本という地域の歴史を研究します。岡山大学文学部には、古代・中世・近世・近現代の全時代をカバーする教員が揃っています。授業によっては附属図書館所蔵の実際の古文書を使用したり、また毎年泊まりがけで古文書調査を実施しており、まさに歴史研究の現場で学ぶことができます。

⇒ 東洋史学領域 ⇐

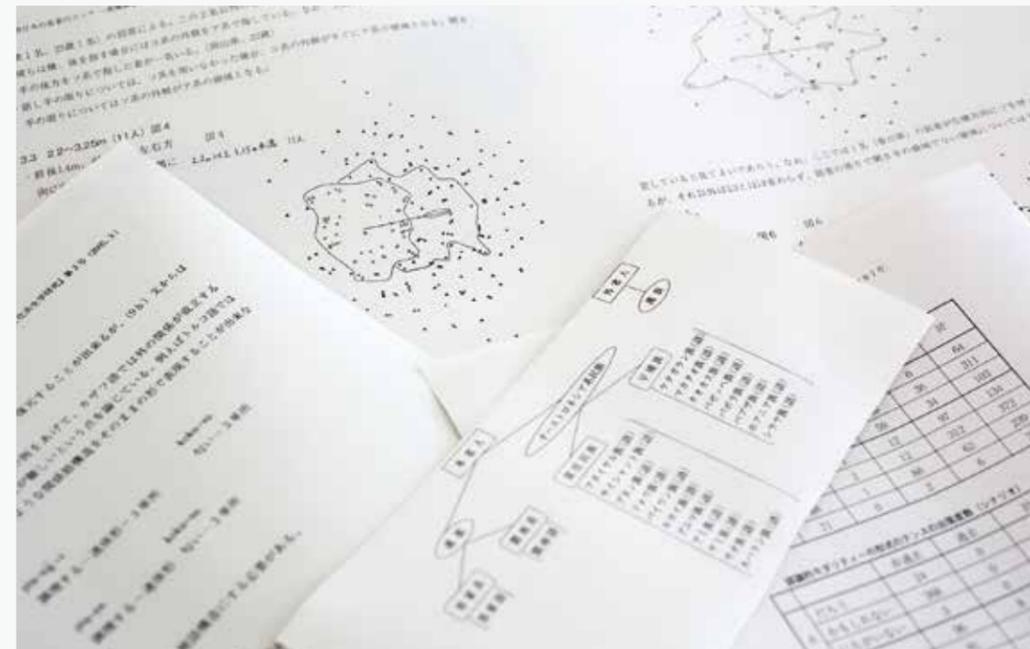
東洋史学領域では、アジア諸地域の歴史を、政治・社会・宗教・文化・経済・国際関係などの多様な視点から研究します。授業では漢語や英語などで書かれた文字史料を読み込んでいきますが、教室から飛び出して自らアジアに出かけることも奨励しており、実際に多くの学生が留学・調査旅行を経験しています。大学院には、中国や東南アジアからの留学生が在籍し、かれらと身近に接することができるのも、東洋史の魅力です。

⇒ 西洋史学領域 ⇐

西洋史学領域では、ヨーロッパ・アメリカ諸地域の歴史を、政治・社会・宗教・文化といった視点から研究します。歴史学は、断片的に伝わる文献・モノを通して、過去の人間の営みを再構成する学問です。西洋諸語の文献史料を読み解きながら、そこに直接表れてこないミッシング・リンクを見つけ、西洋がどんな歴史をたどったのか、西洋が世界の歴史にどんな影響を与えたのか、解明していきます。

⇒ 考古学領域 ⇐

考古学は、遺跡の発掘や出土品の分析を通して、過去の社会・文化を明らかにする学問です。岡山大学文学部では、おもに日本列島の遺跡や遺物を対象として、発掘からコンピュータ解析まで、調査研究のための知識と技術を身につけます。海外との比較研究も積極的におこなわれています。休みの時期に実施する泊まり込みの調査では、縄文時代から古墳時代の遺跡を発掘することができます。



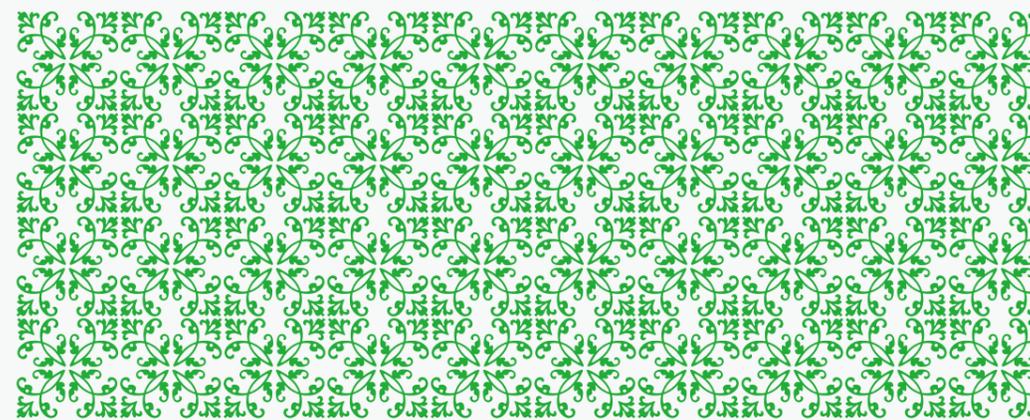
言語学 | 現代日本語学分野

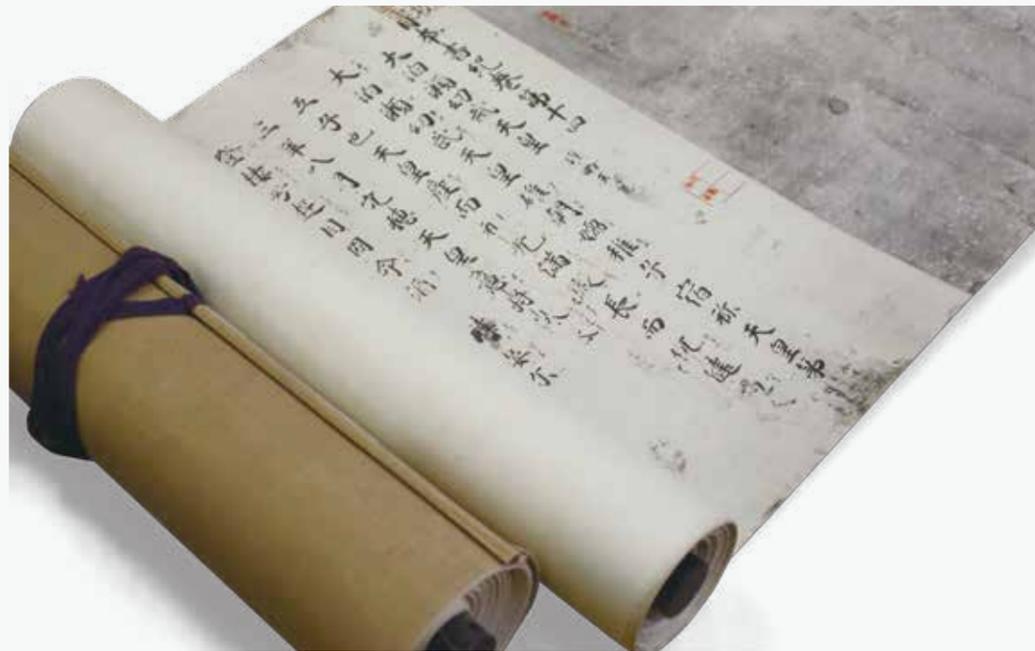
⇒ 言語学領域 ⇐

世界では6,000もの言語が話されていて、どれも精密なしくみをもっています。何気なく使っているどんな言葉でも、その使い方には理由があり、規則があり、メカニズムがあります。言語学領域では、トルコ語などの西・中央アジア諸言語や、フィリピン諸語などの東南アジア諸言語を中心に、日本語との対照もしながら、言語のしくみを解明します。世界中の言語の下に隠れている規則性や多様性を明らかにするのです。

⇒ 現代日本語学領域 ⇐

同じ日本語といっても、地域ごとの方言もあれば、世代による話し方の違いもあります。テレビのニュースとケータイ小説のセリフとでは、言葉づかいが変わります。日本語を母語とする人とそうでない人では、日本語の習得方法が異なります。現代日本語学領域では、県内外に足を運んでインタビューやアンケート調査をおこなったり、自然談話の録音資料やデータベースを利用して、現在話されている多様な日本語のしくみを研究します。





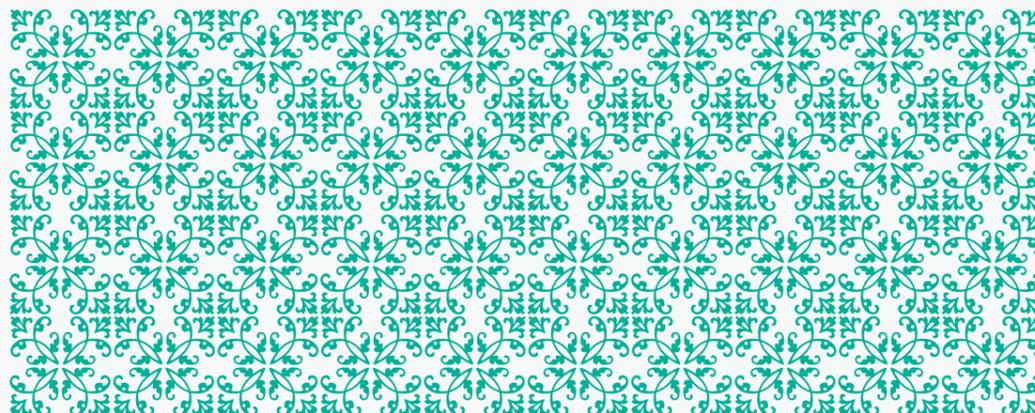
日本語 | 日本文学分野

日本語学領域

日本語学領域では、日本語が古代から現代へとどのように変化してきたのか、その経緯を文献資料や現代語・方言の分析を通して研究します。昔の日本語を知らなくても、今の日本語を話すのに不自由はしません。でも、なぜこんな言い方をするのか、その理由は長い歴史のなかでの言語の変遷にこそあるのです。日本文学・中国文学とも連携しながら、何気なく使っている日本語の奥行きを知ると、日本文化の豊饒な世界に通じるでしょう。

日本文学領域

古代から現代まで、日本は世界に類を見ない独自の文学を発展させてきています。日本文学領域では、和歌、物語、小説など、日本の文学作品に分け入り、それを支える文化・社会・思想にも目配りしながら、理解を深めます。人間はよりよく生きるために言語を通して世界を認識し、文学を生み出してきました。ふだん意識しなくても、文学はたしかに私たちの認識と生活の根幹を形成しているのです。



外国語 | 外国文学分野

中国言語文化学領域

悠久の歴史と伝統を誇る中国。その4,000年にも及ぶ時の流れのなかで、多様で膨大な文化遺産が蓄積されてきました。そのなかでも言語・文学・思想・文化の研究を、中国言語文化学領域ではおこないます。中国語のしくみを理解するとともに、たとえば陶淵明や白楽天らの詩、『三国志演義』や『西遊記』等の小説、現代の小説・演劇・映画・漫画から、アジアにもヨーロッパにも多大な影響を与えてきた中国文化に分け入ります。

英米言語文化学領域

大学で英語を学び、英語圏文学を研究することは、たんに英語を話せる技能・知識を身につけるだけのものではありません。それは、英語のメカニズムを科学的に解明するための理論や方法を学ぶことであり、英米の小説・詩・演劇を成り立たせている構造や理論、文化的・社会的背景、映画やジャズなど他の芸術形式との類似と差異、を解明していくことです。もちろん、言語と文化への深い理解は、英語運用能力の向上にも資するでしょう。

フランス言語文化学領域

フランス文化には、人間に対する鋭敏な、ときに辛辣なほどの洞察と、それを言い表すことばの美しさへの特別な感覚が息づいています。フランス言語文化学領域では、ルネサンスから現代までの文学(詩・小説・演劇・エッセー等)と、英語や日本語との対照から見える現代フランス語のしくみについて学び、さらに映画・BD(漫画)・オペラ・シャンソン・フレンチポップスなどを通して、フランス文化の世界に足を踏み入れます。

ドイツ言語文化学領域

ドイツ文化は、時間と空間の隔たりを超えて、人間・自然に対する深い愛情と洞察を、私たちに直接語りかけてくれます。ドイツ言語文化学領域では、ドイツ語のしくみを理解することはもちろん、ゲーテやシラーからハイネやビューヒナーを経てカフカやエンデにいたる文学、ニーチェやフロイトの思想、さらにドイツ語圏の音楽・絵画・映画を通じて、ドイツ文化の世界に踏み込んでいくことができます。

人生をかたちづくるには、精神に絶えず
多くの違った人生や思想や習慣を
見せ、人間性が不断に変化する
ものであることを味わわせる

以上によい教育は
ないと思う。

*

ミシェル・ド・モンテーニュ

プログラム

岡山大学文学部では、8分野の専門科目とは別に、実践的な語学習得・資格取得のための専門科目を、「外国語習得・留学プログラム」「学芸員課程プログラム」として用意しています。これらの科目は、他の専門科目と開講時間帯が重ならないように時間割が組まれています。

*

外国語習得・留学プログラム

ドイツ語・フランス語・中国語について、「使える外国語を身につける」ことに特化した授業プログラムです。基礎文法から応用会話、時事ニュースの聞き取りから専門文献の読解、さらに幅広い作文までそろっています。教養外国語科目と連携して構成され、ネイティブ・スピーカーの教員が担当する授業もあり、一般的な大学の倍の密度で教育がおこなわれます。

しっかりと取り組めば、2年次からの海外留学も、独検・仏検・DELFD/DALF・漢語水平考試などの語学検定合格も、夢ではありません。岡山大学文学部では、ドイツのベルリン自由大学とボーフム大学、フランスのボルドー・モンテーニュ大学とストラスブール大学、中国の吉林大学をはじめとした各国の大学との交流協定（授業料免除条項を含む）を利用して、短期から長期までの様々な留学ができます。また岡山大学には、アメリカはじめ世界の26大学との授業料免除の短期留学プログラム（EPOK）や、私費による語学研修プログラムが用意されており、文学部からも毎年多くの学生が留学しています。

海外留学体験記

白坂祐子「フランス留学を終えて」



愛媛県、松山東高等学校出身。現在は、文学部人文学科4年次生として、哲学芸術学専修コース（現・芸術学領域）に所属。

私は2年次生の9月からの4ヶ月間、フランスに留学しました。私が通っていたボルドー大学の語学学校は様々な国籍の人がいましたが、すぐに仲良くなりました。クラスの友人たちと互いに助け合いながら授業を受け、パーティをしたり、美術館に行ったりしたのはとても良い思い出です。

日本に帰りたくなるほど辛いこともたくさんありましたが、その度に友人たちに助けられ、自分の力で解決する努力ができるようになりました。

未知の国での生活は、多大な苦勞や困難を伴うものですが、その中で触れ合う親切な人々や美しい夕暮れは普段の生活では得難いものです。フランスで得た経験は、私の自信にも繋がりました。あの頃の自分に負けないように、あの頃の思い出を糧に、目標に向かう努力を続けていきたいと考えています。

学芸員課程プログラム

博物館や美術館で資料と作品の収集・保管・展示・調査研究をおこなう専門家が、学芸員です。その資格は、所定の授業科目の単位を修得して卒業することで得られます。

岡山大学文学部では、学芸員の資格取得に必要な授業科目を開講するとともに、展示会やトークイベントの開催、ニュースレターの発行などにより、文化遺産を未来に伝えていくという学芸員の重要な職務について、しっかりと教育をおこなっています。学芸員経験や文化財の実務経験のある教員が多数いるのも強みです。

博物館実習体験記

英大智「非常にやりがいのある学び」



兵庫県、尼崎稲園高等学校出身。現在は、文学部人文学科4年次生として、歴史文化学専修コース（現・考古学領域）に所属。

岡山大学文学部の学芸員課程では、数多くの座学や実習を通じて学芸員に必要な知識や博物館資料に関わる基礎的技能について学ぶことができます。3年次生の夏、私は岡山県立博物館における5日間の実習に参加し、博物館資料の取り扱いや特別展の手伝いなどの博物館業務を体験することができました。この実習を通じて、博物館や学芸員は多くの人々の関わりによって成り立っていることを学ぶことができました。また、学芸員の仕事は展示や研究だけではなく、資料を保存して次世代へ伝えていく使命もあることも分かりました。更に、秋に岡大附属図書館でおこなった展示実習では、自分たちで企画したものを展示して来館者の方に見ていただくなど、大変やりがいのある時間を過ごすことができました。

ひとがものを書くのは、
今の自分とは違う者
になるためだ。

*

ミシェル・フーコー

卒業論文

大学とは、いまだ解決されざる問題に取り組む研究者たちが集まった、研究の現場にほかなりません。学生もまたその現場のただなかで、自分自身で研究課題を設定し、自分自身の力でまだ誰も知らなかったその解決を見つけ出して、卒業していきます。その成果こそ、卒業論文です。

*

石本忍「言い訳の機能—— 言い訳と自己イメージとの関連性」

岡山県、岡山朝日高等学校出身。平成14年度、文学部行動科学科心理学履修コース（現・心理学領域）を卒業。現在は、旭川荘厚生専門学院精神保健福祉学科専任教員（精神保健福祉士）。

この卒業論文は「言い訳」に関して研究しています。「人は何故言い訳をするのか」という素朴な疑問がきっかけとなっています。「言い訳をするという行動」を自己のイメージの向上、もしくは維持という点において行動分析学からの分析を試みています。自己のイメージに関しても、自分が抱く自分に対するイメージだけでなく、言い訳をする相手が抱く自分に対するイメージを自分がどう抱くかというイメージも分析の対象としています。言い訳について考えることで、言い訳そのものに対するイメージや言い訳をする相手に対するイメージも変わり、自分と相手への理解が深まったように思います。この卒業論文を通じて、「言い訳」という面から自己理解や他者理解の一助にでもなれば幸いです。

鈴木祐香「旧岡山県浅口郡における屋号の社会言語学的研究」

広島県、広島大学附属福山高等学校出身。平成27年度、文学部人文科学言語科学専修コース（現・現代日本語学領域）を卒業。現在は、岡山県庁に勤務。

皆さん、「屋号」というものをご存知でしょうか。屋号とは、歌舞伎で常連客が叫ぶ「〇〇屋!」のような、姓とは異なる家の呼称です。実は一般の家にも屋号が存在しています。私の住む地域ではまだ屋号が日常的に使用されており、その命名に共通点があるのではないかと考え、農漁村の社会構造を残す地域における屋号の使用実態を卒業論文のテーマにしました。

実際の調査を通して屋号の衰退を痛感する一方、人とともに変化していく言葉を学ぶ面白さを改めて感じました。学生生活のまとめとも言える卒業論文で、私にとってなじみ深く、残るか消えるかの瀬戸際にある屋号の変化の一端を垣間見ることができたことをうれしく思っています。

野崎麻衣「石材流通と目的から探る石鏃のかたち —— 岡山県のサヌカイト製石鏃を中心に」

奈良県、郡山高等学校出身。平成26年度、文学部人文科学歴史文化学専修コース（現・考古学領域）を卒業。現在は、岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程に所属。

考古学研究室で長期休暇時に実施している発掘調査をきっかけに、他地域から持ち込まれる石材を用いた石器の製作に関心を持ち、卒業論文では石鏃を題材としました。縄文・弥生時代の石鏃約7,000点の分析から、石鏃のかたちを決定づける要因の複雑さについて、石材流通を軸に論じました。

約7,000点ものデータの収集と分析には大変なエネルギーを要し、毎日が自分との闘いでした。また、研究に取り組むうちに、論理の展開や言葉の選択がいかに難解で、いかに重要であるかを実感するようになりました。自分の思考を的確に読み手に伝える力は、卒業論文の作成を通じて得られた大切な視点でした。引き続きこの力を鍛え、あらゆる場面で活用していきたいと思っています。



僕ら書物のなかに仕舞われている、はるかな過去の
 ものごとの記憶と完璧な知恵をじっくりと考えてご
 らん。それこそ、どんな運命の襲撃と災厄に
 あっても、君をもちこたえさせ、
 支えてくれるはずだ。

 *

レオン・パッティスタ・アルベルティ

進路 / 免許・資格

人間について、社会・文化・歴史・言語について、ことばの力で人間が生み出したすべてを研究する文学部で学んだことは、皆さんがどのような進路を選ぼうとも応用の利く確実な力となります。岡山大学文学部の卒業生は、公務員や教員や金融業・保険業をはじめとして、あらゆる職種に幅広く就いています。また、例年1割程度の学生が、さらなる研究に邁進すべく、岡山大学大学院社会文化科学研究科など各地の大学院に進学しています。

織田景子「我が青春の学び舎」

岡山県、金光学園高等学校出身。平成17年度、文学部言語文化学科英語英米文学履修コース（現・英米言語文化学領域）を卒業。現在は、富士通株式会社官庁システム事業本部に勤務。

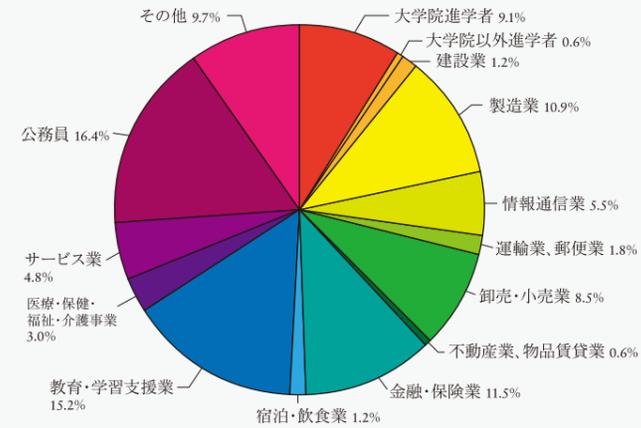
英語教員を目指し、専門性の高い文学部に入学しました。在学中は英文学（特にシェークスピア）を専攻し、課題や卒論の製作を通して論理的に書くことを学びました。EPOKで留学したシェフィールド大では、英語力向上に励みつつビジネスコンペに参加する等、未知の分野も体験してみました。

就活では、企業経験は教育にも資すると考え、システムエンジニアの道に進みました。現在、新しいシステム作成の提案活動をしており、大学での学びに間接的に支えられる日々です。

母校には支援を惜しまぬ先生方、お互いを高め合える学友、そして豊かな環境があります。これらを最大限に活かし、興味があるものに挑むことで大きく羽ばたいていって下さい。



平成26年度の進路先内訳



進学先の一例

岡山大学大学院社会文化科学研究科
 京都大学大学院人間・環境学研究科
 大阪大学大学院文学研究科
 名古屋大学大学院環境学研究科
 神戸大学人文学研究科
 など

国税庁 国税専門官
 気象庁 大阪管区気象台
 広島高等裁判所
 広島簡易裁判所
 島根県図書館
 高等学校教員(岡山県、広島県、兵庫県、等)
 中学校教員(岡山市、高知市、等)

JA共済岡山県本部
 東レ
 川崎重工業
 凸版印刷
 JFEスチール
 パナソニック
 ゼリア新薬工業
 NECソリューション イノベータ
 NTTデータ セキスイシステムズ
 NTT マーケティングアクト
 日本郵便グループ
 三菱電機ロジスティクス
 伊藤忠商事
 無印良品
 大韓航空
 スカイネット・アジア航空
 阪急電鉄
 西日本鉄道
 など

就職先の一例

岡山県庁
 島根県庁
 山口県庁
 愛媛県庁
 高知県庁
 兵庫県庁
 岡山市役所
 倉敷市役所
 総社市役所
 福山市役所
 米子市役所
 法務省
 厚生労働省 岡山労働局

日本生命保険
 三井住友海上火災保険
 あいおいニッセイ 同和損害保険
 損害保険ジャパン
 住宅金融支援機構
 両備システムズ
 日本放送協会(NHK)
 西日本放送
 テレビ山口
 読売新聞 大阪本社
 山陽新聞社
 野村證券
 三菱東京UFJ銀行
 みずほ銀行
 中国銀行
 香川銀行
 JAバンク高知信連

羽田まどか「自ら考え選択する力を身につけた大学生活」

岡山県、岡山操山高等学校出身。平成24年度、文学部人文学科言語文化学専修コース（現・日本文学領域）を卒業。岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程を経て、現在は、岡山大学附属図書館に勤務。

私は日本の近世文学を専攻し、博士前期課程を修了いたしました。修了後も研究を続けたいという気持ちと、池田家文庫に関心があったため岡山大学附属図書館へ就職いたしました。

文学部は多様なコースがあり、様々な学識を持った先生方の授業を聴講することができます。そのためか多領域に跨るテーマに魅かれ、修士論文等では課題の多い研究対象を選ぶことになったのですが、先生方は自ら考えて選択する事を尊重してくださり、多くのご助言を頂きながら論文を完成させることができました。さまざまな選択肢の中から自分自身で考え選択できることが文学部の魅力であり、現在もその経験が自分の力になっているのではないかと感じています。





戦争の道具が明らかに軍隊
だとすれば、平和の道具は
異論の余地なく
大学だ。

*

ホセ・オルテガ・イ・ガセット

学問とは

岡山大学文学部では、授業のほかにも、日々研究が積み重ねられ、人間や社会に関する現在も未解決の問題に新たな知見をもたらしています。それらの重要な知見を、これまで論文や著書のみならず、一般公開の研究会や講演会、シンポジウム、映画上映会などのイベントを通して、広く公表してきました。講演会シリーズ「岡大文学部発：世界の街歩き」「ニホンガク最前線」「若者と家族のいまをみつめる」、あるいは貧困・介護・ジェンダーなどをテーマとする複数のプロジェクト研究の公開ワークショップが、今後も開かれていく予定です。チラシや岡山大学文学部ウェブサイトをチェックしてみてください。

幸いにも多くの高校生の参加があった第1回・第2回の「岡大文学部発：世界の街歩き」に登壇した清家章先生と王安先生に、学問のお話を伺ってみましょう。文学部長の金関猛先生にも訊ねてみました。高校までとはひと味違う、大学の雰囲気を感じ取れるはずですよ。

*

清家章

(歴史学・考古学分野：考古学)



— 清家先生は先頃の「岡大文学部発：世界の街歩き」では、トルコでの調査についてお話しくださいましたが、ご専門は日本の考古学だと。

とくに日本の古代の親族構造の研究です。これは、家族構成だけではなく、王権の継承や国家の成立に関わる問題です。人類学や女性史の研究ともつながっています。遺跡調査をして、埋葬の仕方や人骨の科学分析結果などから考察しています。

— 遺跡調査は楽しそうですが、またとても大変そうですね。

考古学の授業のなかで、私は遺跡調査をとりわけ重視しています。大学では、発見、あるいは発見の能力を獲得することが一番大切ですから、高校までのような教科書の内容の暗記でなくて、今わかってないことを、自分で資料を探し、実験や分析によって自分で明らかにすることが大切です。それには、実際に遺跡調査をするのがうってつけなのです。

— まだ答えの分かっていない問題を自分自身で解き明かすことは、考古学に限らず、文学部のどの分野・領域でも求められることですね。そこに大学の面白さもまたあると言えそうです。

王安

(外国語・外国文学分野：中国語)



—王先生は中国語の文法や会話の授業を担当なさっていますが、ご専門は中国語に限らない言語学のことですね。

はい。なかでも各国語での感情表現に興味をもっています。対照言語学や認知言語学、最近では言語類型論のアプローチをとりながら、日本語と中国語、さらに韓国語・英語・ドイツ語・フランス語での喜怒哀楽の表現を比べたりしています。

— たくさんの言語を比べるんですね。

そうやって各言語を比較すると、隠れていた言語表現の特徴とその背後にあるルールが見えてくるんです。感情表現みたいに、規則も理由もなくただそうなっているだけに思えるものにも、ちゃんとしたルールがあって、だからこそ表現するんだと分かるのが、言語学の面白さです。

— それは人文学の醍醐味とも言えますね。ランダムに見える自然現象に法則を見いだすように、理由もなさそうな人間社会のことに原因や規則を見いだせる……。

ですので私は、授業でもただ文法を憶えてくださいとは言わないようにしています。言葉にはそう言うべき理由がしっかりあって、その理由を見つけて、理解することが大事です。そうすれば自分の母国語でも外国語でもよりよく理解できて、しかも面白いと思えるようになるんです。

金関猛

(外国語・外国文学分野：ドイツ言語文化学)



— 金関先生は現在、文学部長をお務めになつていますが、はじめに文学部について……。

受験希望者にも新生にも、まずは「学ぶことは楽しい」のだと、伝えたいですね。とりわけ文学部で人文科学を学ぶことは、何百年も何千年も昔の人々と知的にコミュニケーションをするという、きわめて刺激的な経験なのだ。

— 先生自身は約100年前に精神分析を創始したフロイトのご研究をなさっています。先頃、著書『ウィーン大学生フロイト』(中公叢書、2015年)を上梓されました。

たとえばウィーン大学の医学部で実証的科学的急先鋒だったフロイトが、どうして実証主義を踏み越えてしまうような人間の無意識を問題にしたのか。それはフロイトが、人間にとっての現実の現実性はどこにあるのかと、徹底的に考え抜いたがゆえの帰結です。そうした先人たちの思索の跡は、わたしたちが新しいものの見方、人間や世界の新しい理解を獲得する手助けになってくれます。

— 美術史家パノフスキーが言ったように、「人間の記録が古びることなどない」と。

変化の激しい時代だからこそ、文学部の確固たる学びには意味があるし、役に立つものでもあるのだと思います。



岡山大学文学部までの交通案内

1. JR岡山駅西口から岡電バス

「岡山理科大学」行き乗車、「岡大西門」下車。約10分。

2. JR岡山駅東口から岡電バス

「岡山大学・妙善寺」行き乗車、「岡大西門」下車。約30分。

*この路線は市内を廻るため時間がかかります。

3. JR法界院駅から徒歩で約10分。

4. JR岡山駅西口からタクシーで約7分。